

「看護に心を患者さんに愛を」

和水平立病院の看護部は、「看護に心を患者さんに愛を」スローガンに掲げ、日夜業務に励んでいます。

本年度は、新規採用の看護師を9人迎え、さらなる安心・安全な看護の提供を常に心がけ、地域の皆さまに親しまれ必要とされる病院を目指します。

看護部では、「ナーシング ナウ キャンペーン」に取り組んでいます。

「ナーシング ナウ キャンペーン」とは、看護職が人々の健康の向上に貢献するために行動する世界的なキャンペーンのことです。

現在、少子超高齢化による人口・疾病構造の変化などに伴い、保険医療体制が変わりつつあります。

私たち看護部は、それらを見据え、生活と保険・医療・福祉をつなぎ、地域の皆様が住み慣れた場所で、生きがいを持って生活ができるよう、感染対策・医療安全・災害支援・認知症サポート・地域連携・ブルーサークル活動などに力を注いでいきます。

地域の皆さまの一番近い存在として、患者さんを思いやり寄り添い、応えようという気持ちで接し、皆様が「ここでよかった」と思われるような看護部を目指し、日々精進していきます。



左前より松浦看護部長、沖4階病棟棟師長
左奥より福本3階病棟棟師長、江上外来師長

問い合わせ先 和水平立病院 ☎0968・86・3696

Nursing now

看護の力で健康な社会を！

by和水平地域おこし協力隊 vol.4

なごみ日和

和水平地域おこし協力隊がお届けする「なごみ日和」では、町を元気にする活動をしている人たちを紹介しています。
今回は8月から新しく和水平地域おこし協力隊の移住定住担当となった鈴木裕也さんを紹介いたします。

地域おこし協力隊 × 心理カウンセラー



すずき ゆうや
地域おこし協力隊 移住定住担当 **鈴木 裕也**

玉名市生まれ、玉名市育ち
2015年 神奈川県に移住、
スポーツトレーナーとカウンセリングの勉強を開始
2017年 福岡市に移住し、心理カウンセラーとして活動
2019年 福岡市からUターン、地域おこし協力隊として和水平に移住

8月からは、空から和水平の移住定住することになりました。以前から福島の地域おこし協力隊のメンバーとして、熊本のメインパーソナリティとして活動しています。関東で暮らしていたときに、恩師である丸岡謙仁さんと出会い、直接カウンセリングの指導を受け、技術を教わりました。自分と同じように悩みを抱えていたり、日々の生活が辛いと感じたり、入りたい人たちのヒントになり、カウンセラーの道に入り、今に至っています。趣味は、ジムでトレーニングや自転車など、ランニングや自転車で、音楽が一般的に好きです。レコードを聴きながらの読書が大好きです。

ちょっと変わって、ちよつと変わって、関係に任せていたとき、知人に「熊本は水がきれい、野菜や畜産もおいしいものがたくさんあります。自然が豊かだから、クワイビティを満喫できる良い場所だよ」と言われ、魅力が離れてみられ、再確認できました。移住を検討している人へのアシストや、既にある部分の発掘を楽しくやっています。

協力隊活動記 Vol.25

よねかわ ひろこ
米川 博子



古墳祭のちょっと裏側を紹介します

夏休みも終わりましたが皆さんはどんな夏を過ごしましたか？私は今年も和水平古墳祭の企画委員として準備段階から参加しました。その中でも、「火巫女の付き人」という役割を昨年に引き続き務めました。これは分かりやすくいうと火巫女さんのマネージャーのような役割です。

具体的にどんなことをするのかというと、古墳祭にたくさんの方が来てもらえるよう古墳祭のPRをする“キャラバン隊”を組み、町内の保育園や小学校、老人ホームなどの施設を訪問するのですが、その時の火巫女さんの着付けやメイクなどを行うのが私の役割です。

一見それだけと思えますが、これが思いのほか奥が深いのです。火巫女さんは毎年違う人が務め、その性格や個性、火巫女になろうと思った理由もさまざまです。それに加えて、公衆の面前に出る機会の多さや本番への不安、慣れない衣装と暑さ

による疲労など、配慮すべき点はたくさんあります。それらをくみ取り「今年の火巫女さんがのびのびと力を発揮できるように」サポートするのが付き人の役割なのです。その年、その年で新しい火巫女が生まれます。50年近く続く伝統ある古墳祭の流れを守りつつ、“今年らしいもの”を創る、そのお手伝いができ、とても光栄です。そして今の子どもたちが大きくなったら「自分も古墳祭に出たい」と思ってもらえたら嬉しいです。



◀火巫女バトンタッチ後の記念撮影。先代火巫女さんとちび火巫女さんの衣装もデザイン・制作させていただきました！